

位置情報活用によるセキュリティ見守り事業(あらおスマートシティ推進協議会)

■都市課題

- 近年の大規模自然災害の増加
- 保護者が児童の登下校中の所在を把握できない(共働き、シングルマザー/ファザー家庭)
- 児童の見守りにおける地域等のマンパワーの不足

■解決方策

- 教育用タブレットから得られる位置情報を用いた
- 登下校中における児童の現在地・行動履歴把握
 - 登下校エリアから外れた際のアラート通知
 - 出欠席の管理や出欠席データの活用

■KPI

- ◆見守りサービス導入意向のある自治体割合・・・70%
- ◆安全安心につながると感じる保護者割合・・・80%

■実証実験の概要・目的

「児童の登下校見守り」について、既存アセットである「教育用タブレット(児童1人1台に配備)」を活用することで、実装コスト低減と“面”での見守りの実現の両立を図り、保護者や教職員から受け入れられ、かつ早期に社会実装するための運用及びビジネススキームを具体化するための検討・検証を行う。

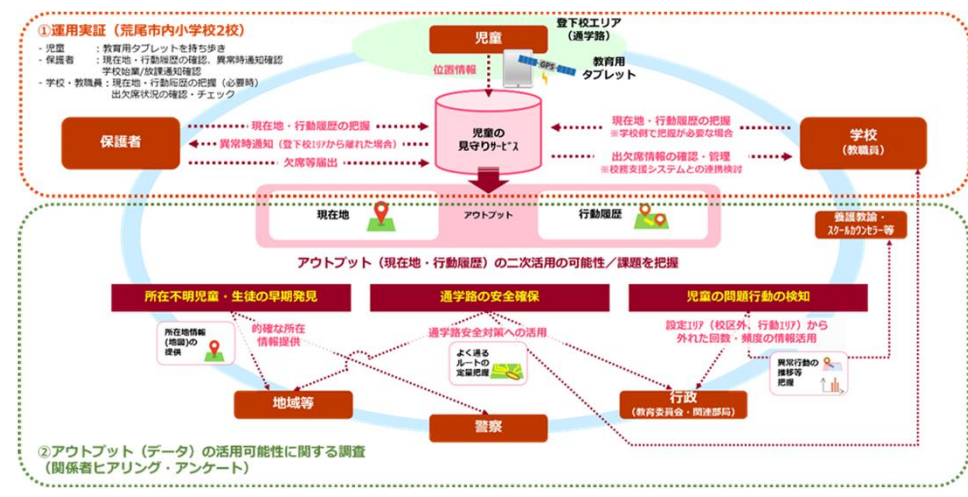
■実証実験の内容

① 教育用タブレットの位置情報を用いた見守りサービスに関する運用実証

- 荒尾市内小学校を対象として、一定期間、実証サービスを児童・保護者・教職員に利用していただき、児童の登下校時における見守りに適用できることを確認する。
- 自治体向けアンケートにより、導入意向やビジネスモデルの妥当性を確認する。

② 見守りサービスから得られるアウトプット(データ)の活用可能性に関する調査

- アウトプット(データ)を明らかにし、まちづくりや防災・減災、福祉等児童の安全・安心につながる方策への活用可能性があることを、教職員や荒尾市教育委員会、荒尾市関係部局へのヒアリング・アンケートにより確認する。



■実証実験で得られた成果・知見

① 教育用タブレットの位置情報を用いた見守りサービスに関する運用実証

【受容性観点】

- 登下校中における児童の現在地・行動履歴を把握でき、異常時に通知を受け取ることができることで、保護者の安心・安全につながることで、さらに、行方不明児童の捜索の迅速化・効率化が図れ、学校・教職員の負担軽減につながることを確認

【技術的観点】

- 教育用タブレットの見守り活用において、学習利用への影響がないことを確認

【ビジネス成立性観点】

- 「見守りサービス」について自治体の受容性、導入意向が確認された
- 一部の自治体から、サービス導入コスト低減を求める意見も見られたことから、普及展開に向けて、継続検討を行っていく必要がある

② 見守りサービスから得られるアウトプット(データ)の活用可能性に関する調査

- 児童の登下校中の行動履歴を統計化・可視化することで、登下校路の実態の把握でき、より安全な交通安全対策等に活用できる等アウトプットの活用可能性を確認

■今後の予定

「教育用タブレットの位置情報を用いた児童の登下校見守りサービス」(位置情報見守り機能・出欠席管理機能)について、令和6年度後半を目途に、荒尾市内モデル校への導入を行う。令和7年度以降、荒尾市内全小学校への導入拡大及び他自治体への横展開を行う。